

中央大学 情報農学部 情報農学科(仮称)概要

<2028年4月開設予定/設置構想中>

学部・学科名称	情報農学部 情報農学科(仮称)
設置時期	2028年4月(設置構想中)
設置場所	多摩キャンパス
入学定員	297名(1学年)
収容定員	1,188名
初年度納付金(予定)	入学金 : 240,000円 授業料等 : 1,719,000円
	初年度納付金(計) 1,959,000円

- 類似する大学・学部
- 千葉大学:園芸学部園芸学科
 - 東京農工大学:農学部生物生産学科
 - 東京農業大学:農学部農学科
 - 法政大学:生命科学部応用植物科学科
 - 明治大学:農学部農学科

※[授業料等]には、施設設備費・実験実習料・その他諸会費等を含みます。また、フィールドワーク・体験型授業等に参加するための費用・経費が別途必要です。

アドミッションポリシー

【求める人材像】

- 「農」「食」「環境」分野に興味・関心を持ち、持続可能な社会の実現に貢献したいと考える人
- 「農」「食」「環境」分野の諸課題を最新のテクノロジーを駆使して解決したいと考える人
- 多様性や他者への共感を大切に、価値観の異なる他者と共に、大きな課題に立ち向かうことができる人
- 自然や生き物の持つ価値を理解し、地域社会や国際社会の諸課題に真摯に向き合いたいと考える人

【求められる資質】

知識・技能

- 高等学校における各教科・科目について、文系・理系を問わず、英語、数学を中心に、理科、国語、地理歴史、公民、情報などの幅広い基礎知識を身につけている。

思考力・判断力・表現力等

- 物事を正確にとらえ、論理的かつ創造的に思考することで自らの意見を明確化し、相手に伝えることができる。

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- 「農」「食」「環境」分野に関する社会の動きと、情報科学分野や自然科学分野との関わりについて興味・関心を有している。
- 高等学校における学習や課外活動において主体的に活動した経験を有している。
- 将来に対する明確な目標を持ち、その目標に向かって他者と協働しながら学ぶことができる。

多摩キャンパス ACCESS

多摩モノレール
「中央大学・明星大学駅」直結

- 京王動物園線「多摩動物公園駅」から徒歩約10分
- JR中央線「豊田駅」からバス約15分
バス停「中央大学」下車
- 京王線・小田急線「多摩センター駅」からバス約12分
バス停「中央大学」下車



お問い合わせ

情報農学部(仮称)開設準備室事務室 TEL:042-674-2427

<多摩キャンパス>
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

<中央大学 公式サイト>
<https://www.chuo-u.ac.jp/>

受験生サイト



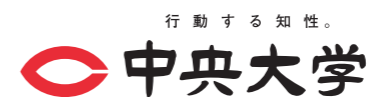
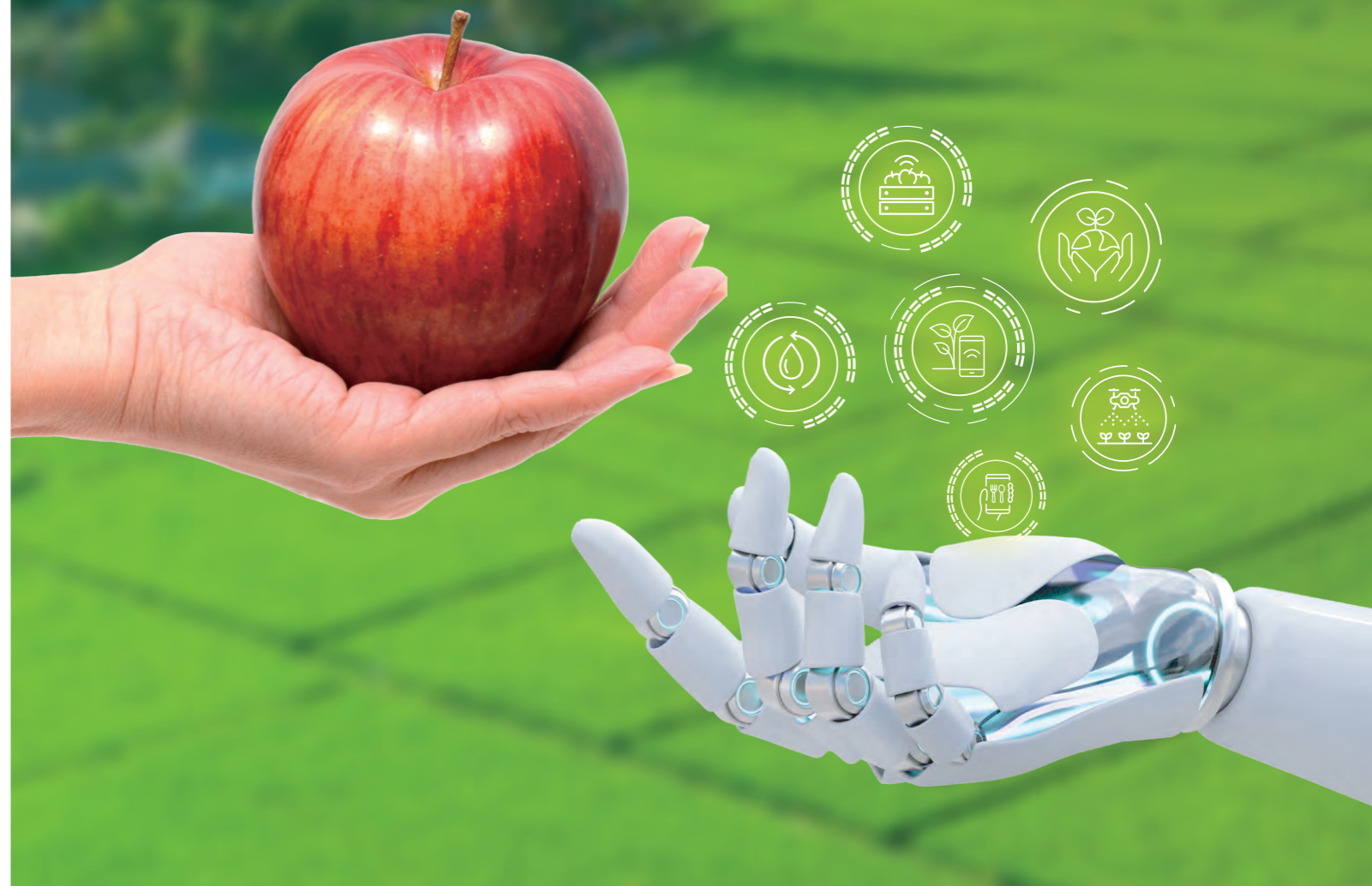
情報農学部(仮称)特設サイト



テクノロジーで 未来はもっと、耕せる。

中央大学に、 情報農学部(仮称)新設。

<2028年4月開設予定/設置構想中>



※本リーフレットに記載の内容は設置構想中のものであり、今後の検討により変更する可能性があります。

農業×テクノロジーで 切り拓く食と環境の未来

中央大学情報農学部(仮称)、誕生。

<2028年4月開設予定/設置構想中>

こんな人に オススメ

- 食農産業に応用できる最先端テクノロジーを体系的に学びたい。
- 農業の課題に対するリアルな課題解決力や政策立案能力を身につけたい。
- 食のおいしさや安全性の科学的根拠を知り、食の未来について考えたい。
- 食に関するビジネスに興味がある。
- 環境問題についてグローバルな視点で考え、解決のための行動を起こしたい。
- 最先端の農業技術を活用して地域創生に携わりたい。

■ 設置の理念

農業×テクノロジーを根拠とした学びで、農・食・環境分野の社会課題を解決に導く。

それが、**中央大学情報農学部(仮称)**が目指す未来。

日本の農業は、人口減少や高齢化、耕作放棄地の増加、気候変動、食の安定供給など、さまざまな課題を抱えています。

こうした課題を、ドローンや農業AIなどの最先端テクノロジーを農業に活用する「AgriTech」で

解決に導くとともに、**法的素養** **アントレプレナーシップ** **国際感覚** をもって、

農 食 環境 の未来を切り拓きます。

|| 養成する人材像

経済発展と環境保全の両立に向けて、「法的素養」「アントレプレナーシップ」「国際感覚」を根幹としながら、農学に関する専門的かつ広い知識と情報科学をはじめとした最先端の技術により、「農」から連なる「食」「環境」の分野を中心に、新たな価値を発見・創造し続け、持続可能な社会の実現に貢献する人材を養成します。

スペシャリスト

農学の専門知識と最先端の技術を集結・融合し、専門家として農・食・環境分野の課題解決や新たな価値を創り出す人材。

ジェネラリスト

農学の専門知識や技術のみならず、関連する法律や政策、国際社会の構造や課題を理解し、地域特性に応じた課題解決のための政策立案や農業への幅広い支援を行う人材。

アントレプレナー

前例や慣習に批判的精神で挑み、国際・地域社会の変革を通じて持続可能な社会を切り開く人材。

期待される卒業後の進路

農業関連企業・団体 (農業機械、農薬、種苗、生産)	食品関連企業 (メーカー、流通、卸、小売)	公務員	総合商社	NPO法人
大学院進学、研究所	IT企業	コンサルタント	国際公務員	スタートアップ企業



+ 学びの特徴

「未来の農業」を学ぶ

今、わたしたちが直面している農・食・環境分野の課題を解決するためには、これまでの農業の常識を覆す必要があります。本学部では、土壌や作物の生理などの農業技術の基礎と、それを発展させる最先端のIT、ロボティクス、データサイエンスを学び、スマートで持続可能な農業を形作るための知識や技術を身につけます。

現場のリアルに迫る

教室での講義だけでなく、農場実習やフィールドワークが充実しています。中でも、2年次に開講する「アグリ・チャレンジ・プログラム」では、国内各地の農場等に約6週間滞在しながら学び、農・食・環境分野の現場が直面している課題を知り、解決のための実践力を育みます。

農・食・環境分野で広がるキャリア

学生一人ひとりが自分の将来と向き合いながら学びます。1・2年次は、農・食・環境分野や情報科学の基礎、キャリア教育科目や実習科目の学びを通じて、キャリアへの意識を高めていきます。3年次からは、卒業後を見据えて自ら選択したコースで専門性を深め、農業関連業界はもちろん、幅広い分野で通用する力を身につけます。

+ 目的に合わせて選べるコース(3年次~)



+ 4年間の学びの流れ

